

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007 ～ 2011
課題番号：19330058
研究課題名（和文） 消費税改革の理論・実証分析：効率性と公平性のバランス
研究課題名（英文） Reforming Commodity Taxes: Efficiency and Equality Considerations
研究代表者
福島 隆司（Fukushima Takashi）
政策研究大学院大学・政策研究科・教授
研究者番号：30228887

研究代表者の専門分野： 公共経済学、都市経済学、経済政策
科研費の分科・細目： 経済学・経済政策
キーワード： 経済政策、消費税改革

1. 研究計画の概要

本研究は消費税を最適税理論の立場から吟味し、我が国で近い将来必ず起こるであろう消費税改革を計量モデルに基づいた推定結果に基づき理論、実証の両面から分析する。分析結果は、消費税改革を経済政策の立場から数量的に評価する土台を提供することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 1984年から2004年までの5波の全国消費実態調査報告の都道府県別、年齢別の集計データと47都道府県別の品目別価格データから消費者需要システムを推定した。

(2) 年齢別、コホート別の所得弾力性を評価し、年齢効果、コホート効果、(調査)年度効果につきその経時的変化を分析した。

(3) (1)の結果から最適消費税率の導出を試みたが、推定された(価格)パラメータを使用した場合、導出される最適税率は頑健ではない。その理由としてはAIDSの積分可能性条件(Integrability)のうち非正定符号性が満たされていないことが考えられる。今後この点について修正の可能性をさぐりたい。

(4) (1)から導かれる費用関数は厳密な意味では個人の効用最大化条件を満たさないが、費用関数の近似としては有用であり、消費税構造変化がもたらすCost of Livingの(近似)測定に使用することはできる。このため3の修正と並行して1.の推定結果にもとづく消費税の各年齢層の厚生に与える影響を

評価する準備を進めている。

(5) 富山大学極東地域研究センターの山本雅資准教授との共同研究「Socail Efficiency Benchmarking: a Comparison of Parametric and Non-Parametric Methods」として、International Seminar on the Current Issues in the Transport and Environment Fieldにおいて発表した。

3. 現在までの達成度

集計量に基づいた年齢別の消費者需要システムの推定結果が得られた。

最適税率については推定結果をそのまま使用しての導出は困難でありさらなる工夫が必要である。

Cost of Livingを計算するための集計データを使用した実証結果は(限定的であるが)得られた。この結果から費用関数を近似し貨幣単位で効用を測ることが可能となった。

消費税構造の変化が与える影響を年齢階層別において分析することが可能となった。

政策シミュレーションについてはまだ着手していない。

4. 今後の研究の推進方策

消費者需要システムの説明変数として家計サイズを導入し再推定を試みる。推定結果からは家計規模の経済を特徴づけるパラメータが求められる。その結果を使用して実質所得および税制の変化による厚生水準への影響を測定する。

全国消費実態調査の個票データを使用した推定を試みる。

個票データは集計量と比べカバーする所得の範囲が広く、所得効果パラメータの推定に利点を持つ。ただし、個票データでは調査世帯の居住地域に関する情報が個人情報保護のため、「都市部か非都市部か」だけに限られる。このため地域間価格の変動を利用した推定はできない。これに対処するため、個票データからは所得と家計属性に関する情報から所得パラメータを推定し、価格パラメータは集計データからの推定結果を援用して擬似的消費需要システムを作成し、それに基づいた消費税改革の効果を評価する方法を追求したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計3件)

1. Seki ASANO and Ji Jing Wang,

“Age, Cohort, and Wave effects in Japanese Household Consumption”, 日本経済学会発表論文, 2009年6月7日

2. Asano Seki

“Consumer Demand System Estimation: Theory and Practice,” invited seminar, held at Instituto de Pesquisa Economica Aplicada, Brazilia, August 8,9, 2008 (ブラジル応用経済研究所)
(招待講演)

3. 吉田雄一朗、山本雅資

“Social Efficiency Benchmarking: a Comparison of Parametric and Non-Parametric Methods”, International Seminar on the Current Issues in the Transport and Environment Field, 2009年11月, ソウル、大韓民国

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他] (計0件)